

第28回群馬県河川整備計画審査会

- **開催日時**：令和元年11月25日（月） 13:00～16:30
- **開催場所**：利根沼田振興局庁舎 1階 101会議室 ほか
- **出席委員**：赤羽潤子、姉崎智子、鵜崎賢一、片野光一、佐藤敦彦、清水義彦、高山佳一、茶珍護、平川隆一、宮田裕紀枝、渡辺龍介（出席11名） 敬称略
- **欠席委員**：石井敦、堀尾明宏（欠席2名） 敬称略
- **事務局**：河川課 …西澤課長、飯島次長、米山次長、野口係長、宮澤主幹、岡部主幹、五十嵐副主幹、田畑技師
前橋土木…神保補佐
渋川土木…後藤所長、井上次長、千嶋補佐、小此木補佐、徳井係長
沼田土木…金子所長、宮内次長、篠原補佐、加藤係長、一場係長、塩原係長
- **議題**：利根川上流圏域河川整備計画（素案）について
- **配付資料**：
 - ・次第
 - ・資料1：委員名簿
 - ・資料2：利根川上流圏域河川整備計画 策定フロー
 - ・資料3：利根川上流圏域河川整備計画の概要
 - ・資料4：利根川上流圏域河川整備計画（素案）
 - ・出席者名簿
 - ・席次表
 - ・意見提出様式
- **議事録**：
 - 1 開会
 - 2 あいさつ（河川課長）
 - 3 現地視察
 - ①坂東橋～第一利根川橋
事務局より整備方針等について説明。
 - 鵜崎委員
台風19号の際はどの程度まで水位が上昇したのか。
 - 事務局
高水敷が冠水する程度まで水位が上昇したが、利根川上流圏域では大きな被害は出ていない。

➤ 会長（清水委員）

右岸側の道路は、堤防整備によりかさ上げをするのか。

➤ 事務局

右岸側道路は、自転車道として利用されており、堤防の改修と併せて付け替え予定である。

➤ 渡辺委員

目標流量 6,000m³/s はどのように設定しているのか。

➤ 事務局

利根川上流圏域下流の利根川中流圏域の整備進捗状況に合わせて設定した。

②月夜野大橋下流～月夜野橋

事務局より整備方針等について説明。

➤ 平川委員

堤防整備に伴い、霞堤は閉めるのか。

➤ 事務局

基本的には、霞堤を閉めることで整備を考えているが、今後の地元自治体との協議や詳細設計において詳細を詰めていきたい。

➤ 平川委員

霞堤から水が堤内地側に入ったことはあるか。

➤ 事務局

今年5月の出水で、徒渉橋下流の霞堤から、未利用地となっている堤内地に水が入ったことは確認しているが、家屋浸水被害は発生していない。

➤ 会長（清水委員）

地元から整備要望はあるか。

➤ 事務局

重要水防箇所になっており、地元自治体からの整備要望も挙がっている。

➤ 会長（清水委員）

月夜野橋上流での整備予定はあるのか。

➤ 事務局

月夜野橋上流は河道が広がっており流下能力が確保されているため、整備予定はない。

4 本日の審査会の公開の可否について

本日の提示内容は、たたき台の段階で今後大きく変更する可能性があり、公開とした場合、混乱を招く恐れがあることから、非公開とすることで出席委員の賛同を得る。

5 新委員あいさつ

6 議題

利根川上流圏域河川整備計画（素案）について

事務局より、資料1、資料2、資料3、資料4の内容について説明。

以下、審議内容

➤ 会長（清水委員）

整備対象区間は、家屋浸水被害の発生を考慮し、整備優先順位の高い箇所を設定しているのか。

➤ 事務局

本川・支川ともに流下能力不足区間のうち、人家が被害を受ける区間を整備対象区間としている。

➤ 鶴崎委員

目標流量 6,000m³/s は、利根川八斗島地点でのカスリーン台風相当の流量 16,500m³/s を逆算して設定した値となっているのか。

➤ 事務局

16,500m³/s は河川整備基本方針で定めた将来目標となる流量であり、国が定めた河川整備計画では八斗島地点で 14,000m³/s となっている。それに見合った流量として利根川中流圏域の河川整備計画では目標流量 8,000m³/s（二次改修）、それに至る段階として一次改修目標の 6,000m³/s と定めており、上流圏域の 6,000m³/s は中流圏域の一次改修段階に合わせた流量としている。

➤ 鶴崎委員

目標流量 6,000m³/s を見直す可能性はあるのか。

➤ 事務局

利根川上流圏域は下流区間の整備進捗状況を踏まえて、目標流量を設定する必要があることから、今回策定する計画では 6,000m³/s としたい。

➤ 宮田委員

国の管理区間と県の管理区間は、何を根拠に分けられているのか。

➤ 事務局

河川氾濫による被害の大きい区間を国が管理している。

➤ 会長（清水委員）

国の管理区間は、扇状地となっており、氾濫原が広がっている。

➤ 会長（清水委員）

第3章第4節「河川環境の整備と保全に関する事項」について、上流圏域の環境を踏まえて、具体的に必要となる整備・対策について記述すべきである。

➤ **渡辺委員**

会長意見に関連して、当該圏域は利根川源流域があるため、河川だけでなく、治山や森林環境についても記述すべきではないか。カスリーン台風では中小河川のある山が荒れたために被害が拡大した。

➤ **事務局**

県森林環境部等とも協議をし、追記を検討したい。

➤ **片野委員**

利根川上流圏域は、群馬県の中でも自然豊かで、標高差も大きいという特徴がある。そのような特色を示すべきではないか。

また、この地域は、山地について調査はあるが、河川の植生調査は不足しているため、調査を行う必要があると認識している。

沼田市については植生誌が出ているが、30年以上前のものであり、それ以降はほとんど調査が行われていない。

➤ **会長（清水委員）**

植生調査が不足していることの問題点（調査の必要性）や、外来種の侵入の問題など、利根川上流圏域の自然環境を脅かすような危険材料についても、記述すべきではないか。

➤ **事務局**

了解した。

➤ **会長（清水委員）**

カスリーン台風についての記述が不足しているのではないか。浸水被害や土砂堆積等について追記すべきである。

➤ **事務局**

文章の追記や、写真の記載を検討する。

➤ **茶珍委員**

水生昆虫の記載を追記すべきではないか。例えば、山地の溪流にはミネトワダカワゲラが生息している。また、この地域だとゲンゴロウなどの貴重な種も存在している。

➤ **事務局**

上流圏域に生息する昆虫について調べ、追記を検討する。

➤ **赤羽委員**

カスリーン台風では上流圏域でも大きな被害も出ており、内容を追記すべきではないか。

➤ **会長（清水委員）**

利根川上流圏域は、カスリーン台風による被害が大きかったので、利根川上流圏域河川整備計画には、カスリーン台風を意識して記述すべきではないか。

カスリーン台風での土砂、流木による被害など、被災形態を記載しておくことが本

圏域の河川整備において重要である。

➤ 事務局

了解した。

➤ 佐藤委員

利根川上流圏域という一般的なには、ヤマメ、イワナの生息域であるため、追記すべきではないか。また、奥利根湖（矢木沢ダム）にはコクチバスという外来種が繁殖しているため、記載していただきたい。生息域が上流から下流に拡大すると、利根川全域が影響を受ける可能性がある。

また、本文の記載について、魚類だけ“等”がついているが、なぜか。

➤ 事務局

ヤマメ等を追記し、「魚類等」の表現については確認する。

➤ 高山委員

施工にあたっては、漁協との情報を共有するなどの表現も入れていただきたい。

また、資料4 P.37（2）河川環境の整備と保全に関する事項に、専門家の意見を聞くところがあるが、漁協関係者についても意見を聞くという表現を加えていただきたい。

➤ 事務局

了解した。

➤ 佐藤委員

サケは月夜野くらいまで遡上したという経緯があるが、実際には坂東堰を上がれず、現状では前橋付近が卵を産む上限となっている。

➤ 会長（清水委員）

堰や魚道の問題についても記述すべきではないか。

➤ 事務局

了解した。

➤ 姉崎委員

カワウを記入してもらいたい。哺乳類に、絶滅危惧種に指定されているカワネズミの記載がないので、追記すべきではないか。

また、本整備計画では堤防整備だけを行うような印象を受ける。昨今の水害では堤防を整備している箇所でも深刻な被害を受けているので、本圏域での災害に関する歴史的背景等からの教訓やこれに伴うソフト対策なども記載すべきではないか。

➤ 会長（清水委員）

河川整備について、内水や土砂災害への記述を追記すべき。また、河川整備（ハード対策）では防ぎきれない大規模災害について、土地利用規制を含む対策について5章の河川情報等に記載すべき。

観光地である利根川上流圏域の特性も踏まえ、観光地の防災対策を意識すべきである。

➤ 事務局

了解した。

➤ 赤羽委員

防災意識が低い地域もあるので、洪水時の住民避難のための防災教育についても記載すべきではないか。

➤ 事務局

了解した。

➤ 佐藤委員

支川には砂防堰堤が多く存在するが、魚は支川を遡上し産卵するため、堰堤があると繁殖が阻害される。近年、魚類に配慮した設計もされてきているため、そのような記載を追記していただきたい。

➤ 事務局

了解した。

➤ 平川委員

第3章河川整備計画の目標に関する事項に、利根川直轄区間、利根川中流圏域も含めた流量配分図を記載しないのか。

また、第3章第4節に、自然環境の保全と再生とあるが、再生とは具体的に何か。

➤ 事務局

流量配分図については、これまで策定されてきた圏域と同様に、該当圏域の流量配分図のみを記載している。

「自然環境の保全と再生」の表現については精査したい。

➤ 宮田委員

歴史について、真田や沼田城に関わる記述を追加していただきたい。

また、沼田の河岸段丘については、現在ジオパーク申請への動きが出てきているため、地質だけでなく、景観にも記載してよいのではないか。

また、吾妻川に金井東裏遺跡、黒井峯遺跡があるため、圏域に含まれるのであれば、記載していただきたい。

➤ 事務局

歴史の記述は追記する。河岸段丘については、景観の項目にも追記する。また、遺跡については圏域界を確認し、該当する場合は追記する。

7 事務連絡

- 議事録の確定、次回開催時期について

8 閉会

(以上)

署名

清水 義彦